

2024 年
日本リハビリテーション心理学会
学術大会

会期:2024年11月9日(土)

会場:静岡県男女共同参画センター あざれあ

会場周辺案内

静岡駅からのアクセス

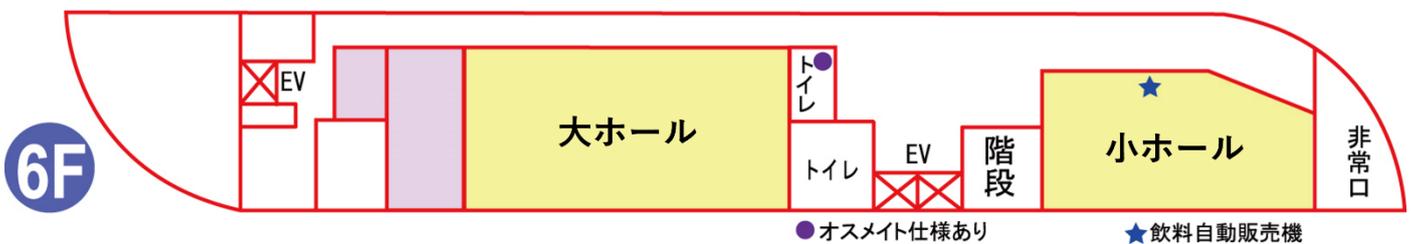
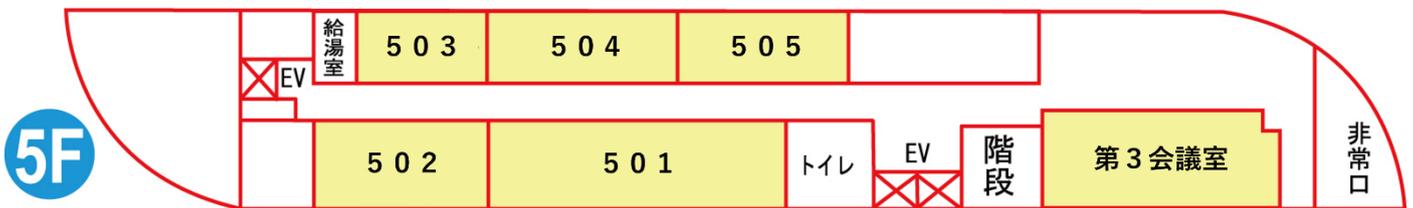


駐車場について

- 一般のご来場者のご利用になれません。周辺のコインパーキングをご利用ください。

会場案内

- ・ 受付は6階 小ホール にて行います。
- ・ 口頭発表は5階 501・505 にて行います。
- ・ ポスター発表は5階 第3会議室 にて行います。



学術大会参加者へのご案内

1. 受付および場所

11月9日(土)9時より、あざれあ6階小ホールにて行います。

2. 参加手続きについて

(1) 事前予約参加の方

事前申し込にて参加費をお支払いされている方は、受付にて参加証(領収書)、名札ケース・発表論文集等をお受け取りください。

(2) 当日参加の方

受付にて参加申込書へご記入後、当日参加費(3,000円)をお支払いいただき、参加証(領収書)、名札ケース・発表論文集等をお受け取りください。

(3) 発表論文集の追加購入

発表論文集1部は、学会参加費に含まれています。追加購入される場合は、1部500円で別途販売いたします。なお、数に限りがありますので予めご了承ください。

研究発表者へのご案内

1. 口頭発表者は受付を済ませ、9:20に各発表会場までお越しください。

2. 口頭発表者は、セッション開始時間までにパソコンの動作確認をお願いします。なお、学会で使用するPCは発表者ご自身でご用意ください。

3. ポスター発表者は、会場にて受付を済ませ、9:30までに所定のポスターパネルにポスターの掲示をお願いいたします。

※すべての発表者におかれましては、「研究発表要領」の内容を必ずお目通しください。

研究発表要領

○口頭形式の発表者

1. 研究発表責任者(筆頭者)

- ・ 研究発表責任者(筆頭者)になれるのは会員のみです。連名発表者は非会員も可とします。

2. 発表形態

- ・ 研究発表責任者(筆頭者)が口頭形式で研究を発表するものです。
- ・ 連名発表者も大会に参加し発表することが期待されていますが、責任在席はありません。連名発表者は申込者と共同で研究した者に限ります。

3. 発表時間

- ・ 口頭発表の時間は15分、質疑応答は10分です。口頭発表終了後、座長の判断で全体討議が行われることがあります。

○ポスター形式の研究発表

1. 研究発表責任者(筆頭者)

- ・ 研究発表責任者(筆頭者)になれるのは会員のみです。連名発表者は非会員も可とします。

2. 発表形態

- ・ 個人または複数の方がポスター形式で研究を発表するものです。
- ・ ポスターパネル(横90cm×縦210cmの予定)にポスターをセッション開始時刻までに掲示し、それをもとに発表者と質問者が個別に討論します。
- ・ 連盟発表者も大会に参加し発表することが期待されていますが、責任在席はありません。連盟発表者は申込者と共同で研究した者に限ります。

3. 発表時間

- ・ ポスターの掲示時間は120分です。在籍時間は発表番号の奇数の方は前半60分、偶数の方は後半60分とし、そのうちの30分以上を責任在籍時間(ポスターの前に必ずいてください)とします。

○研究発表の要件

- ・ 発表研究は、大会での発表時において未発表であるものに限ります。すでに印刷製本して公表された研究(単行本、学会誌、紀要[大学、研究等]、雑誌等に発表されたもの)は、大会において発表することはできません。
- ・ 発表研究は、本学会倫理綱領に基づいていなければなりません。発表者はこれをふまえて、発表者自身の責任において発表してください。

○発表の成立条件

- ・ 口頭発表は、「口頭での発表」「討論への参加」「論文集への発表論文掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められます。また、発表者はセッション終了前に会場を退席することはできません。
- ・ ポスター発表は、「ポスターでの発表」「質疑応答への参加」「論文集への発表論文掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められています。また、発表者は「発表説明責任時間」の間、自分のポスター掲示場所に在籍していなければなりません。かつ、ポスターは所定の時間掲示されなければなりません。
- ・ 研究発表責任者(筆頭者)は、発表開始前に発表会場での受付を済ませ、その会場にて待機しなければなりません。
- ・ 研究発表の際、研究発表責任者(責任者)は必ず発表会場に出席しなければなりません。
- ・ 研究発表責任者(筆頭者)がやむをえない理由で発表ができなくなった場合、事前に大会実行委員会の承認を得ることで、連名発表者<※他の発表で研究発表責任者となっていないもの>が研究発表責任者となることができます(研究発表責任者(筆頭者の交代))。座長への届け出での取り下げおよび交代は無効とされます。
- ・ 倫理的な問題により発表が認められない場合があります。

○発表回数

- ・ 研究発表責任者(筆頭者)となれるのは、大会期間中(口頭発表、ポスター発表をあわせて)1回に限ります。ただし、連名発表者となる場合には回数の制限はありません。

学術大会日程

11月8日(金)

14:00–15:00 編集委員会

15:30–16:30 常任理事会

17:00–18:00 理事会

11月9日(土)

9:00 受付開始

9:30–11:30 口頭発表(5階 501・505)

ポスター発表(5階 第3会議室)

11:40–12:10 総会(6階 大ホール)

13:00– 心理リハビリテーションの会 全国大会 開会式

研究発表プログラム

口頭発表

口頭発表 A-1(9:30-11:30) 座長:古川卓(琉球大学) 会場:501

- | | | |
|--|------------------|------------------------------|
| ① 放課後デイサービスの臨床動作法の取り組み | ○三好 敏之 | 尚絅学院大学 |
| ② 「動作」が生み出す身体と環境との相互作用現象(こころ)の理論的考察(3)―動作定型のアセスメント― | ○宮崎 昭 | 環境とところとからだの研究所 |
| ③ 教育動作法における「引き緩め技法」の検討(4)―股関節前面の緩め、従来の技法と引き緩め技法、当事者視点から― | ○久田 信行
吉田 喬佑# | 群馬医療福祉大学
群馬心理リハビリテーション研究会 |
| ④ 異文化適応促進における心理支援の応用効果についての検証
臨床動作法を取り入れたグループ活動を通して | ○望月 宇
顧 佩霊# | 東京福祉大学
九州大学 |

口頭発表 B-1(9:30-11:30) 座長:松藤光生(中村学園大学) 会場:505

- | | | |
|--|-------------------------|--------------------------------|
| ① 動作法未経験の知的障害を伴う自閉スペクトラム症(ASD)者に対する
躯幹捻り課題における生理学的指標に基づく唾液バイオマーカーの有用性に関する検討 | ○三浦 亜紀
竹田 一則# | 筑波大学大学院人間総合科学研究科
筑波大学人間系 |
| ② 特別支援学級の自立活動における動作法の取り組み―
―自体感覚の獲得と自己内省、心理的安定の支援― | ○川相 佳子
藤瀬 教也 | 糸島市立前原西中学校
中村学園大学 |
| ③ 他者との相互交渉が成立しにくい自閉症児への動作法の実践―
―援助者との関係性の変容と行動の変容との関連について― | ○春口 志帆
向 晃佑
小田 浩伸 | 大阪府立泉南支援学校
大阪大谷大学
大阪大谷大学 |
| ④ 知的障害を伴う自閉症児の対人行動の変容とトレーナーの
関わりの変化 | ○向 晃佑
春口 志帆
小田 浩伸 | 大阪大谷大学
大阪府立泉南支援学校
大阪大谷大学 |

#は非会員

ポスター発表

9:30-11:30 会場:第3会議室

発表者の責任在籍時間:奇数番号は前半(9:30~10:30)、偶数番号は後半(10:30~11:30)、
担当時間のうち30分以上は在席すること

- | | | | |
|------|--|--|--|
| P-1 | 動作課題に強い抵抗を示す脳性まひ児に対する動作法実践場面の支援のあり方について—発達アセスメントに着目して— | ○山崎 真義 | 滋賀県立八日市養護学校 |
| P-2 | 「重い障害」がもたらす母子一体化とその変遷—緊密な共生関係が解けていくプロセスを中心に— | ○船橋 篤彦
藤川 卓也
服巻 豊 | 広島大学大学院人間社会科学研究科
広島大学大学院人間社会科学研究科
広島大学大学院人間社会科学研究科 |
| P-3 | 自立活動の指導における視点を定めた学習評価導入の試み(1)動作法初学者教師の自律的な学びを促すOJTの一助として | ○徳永光真 | 静岡県立吉田特別支援学校 |
| P-4 | 認知症高齢者へのグループ回想法—動作と行為による「対話」の試み— | ○荒金 光江 | 九州大学大学院人間環境学府 |
| P-5 | 健康動作法を通じた高齢者の居場所づくり
公民館でのシルバーカレッジにおける実践報告 | ○田中 翔万
井本 美空
植山 雄貴
篠田 早輝
松山 知世
古賀 聡 | 九州大学大学院人間環境学府
九州大学大学院人間環境学府
九州大学大学院人間環境学府
九州大学大学院人間環境学府
九州大学大学院人間環境学府
九州大学大学院人間環境学府 |
| P-6 | 成人脳性まひ者の健康状態に及ぼすセルフリラクゼーションの効果I:質的分析の側面からの検討 | ○山森 一希
石田 基起
本吉 大介
小田 浩伸 | 筑波大学大学院人間総合科学学術院・
大阪大谷大学教育学部
兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究所・
大阪府立藤井寺支援学校
熊本大学大学院教育学研究科
大阪大谷大学 |
| P-7 | 成人脳性まひ者の健康状態に及ぼすセルフリラクゼーションの効果II:量的分析の側面からの検討 | ○石田 基起
山森 一希
本吉 大介
小田 浩伸 | 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究所・
大阪府立藤井寺支援学校
筑波大学大学院人間総合科学学術院・
大阪大谷大学教育学部
熊本大学大学院教育学研究科
大阪大谷大学 |
| P-8 | 成人期の重度脳性まひ者に対するタテ系動作課題を通じた「ゆるめ」の検討—3泊4日間の療育キャンプの実践を通して— | ○藤川 卓也
船橋篤彦
服巻豊 | 広島大学大学院人間社会科学研究科
広島大学大学院人間社会科学研究科
広島大学大学院人間社会科学研究科 |
| P-9 | 看護師を目指す学生の身体との対面—ストレスマネジメント教育としての実践— | ○高倉 那々実
古賀 聡 | 九州大学大学院人間環境学府
九州大学大学院人間環境学府 |
| P-10 | 家族動作法を通じた心理リハビリテーションへの気づき—家族支援としての健康動作法— | ○丸山 明子
古賀 聡
川辺 裕佳
田中 翔万 | 九州大学大学院人間環境学府
九州大学大学院人間環境学府
九州大学大学院人間環境学府
九州大学大学院人間環境学府 |
| P-11 | 大学生の精神的健康と内受容感覚への敏感さとの関連—適応的諦観は媒介要因となりうるか— | ○上床 幸太 | 大阪商業大学 |
| P-12 | 「気になる壺」開眼イメージ法の展開と大学生の自己注目の変化の関連 | ○松村恭平
小澤永治 | 九州大学大学院人間環境学府
九州大学大学院人間環境学府 |
| P-13 | 心理リハビリテーションキャンプに初参加するトレーナーが抱く不安とその対処 | ○古川 依里香
永留 頼
吉田 姫奈子
向 晃佑 | 九州大学大学院人間環境学府
大阪大谷大学
大阪大谷大学
大阪大谷大学 |
| P-14 | 能登半島地震による内灘町被災者の方への臨床動作法支援報告 | ○和多田 裕
森下 德行
山田 慎雄
香野 毅 | 福井県立大学進学サポートセンター
福井県立奥越特別支援学校・
平谷こども発達クリニック円山事業所はぐくみ
静岡大学教育学部 |